

は罷業本部より發行したる新聞様の印刷物を以て知り得べし。

午前七時支部の前に集まつた四百の會員は組合の旗を先頭に元氣よく太平亭に繰込みました。そして運動の婦人會員十名が赤たすきかけて今日一日の辨當こしらへに一層の元氣をつけ幾日かかつて目的を達すにはなかなとは云ふ勢であります各支部組合などを代表した應援の人たつが交る交る演説をしてくれます。そしてその人達は勿論その團體がせいにして死ねば諸共」と云ふ覺悟で、どこまでもこのストライキに手傳をつかへました。ですから私共今度のストライキは私達ばかりの事ではなくて日本中の労働者が生るか死ぬかの大问题になつて居るのであります。からあなたがたもしつかりと下腹に力を付けて充分な決心で戦ふ事にしませう。ストライキと云ふは資本家に對する戦争で一番大切な事は世間一般の輿論でありますこの輿論のよしあしによつて勝も負けるもきめられるのですところが私共の今度のストライキほど新聞と云はず雑誌社と云はず學者仲間にとつて味方なし同情をしてくれて居るその様子は今までに珍らしき事です尙この所に一つの面白いことがありますからお知らせ致します昨日日本部の麻生さんが太平亭から支部へ行かうとするそのあとから巡查が三人なにか話ながら來ました麻生さんは知らん顔であつたり先になりして居るとも知らぬ三人は甲巡查「君今度のストライキはちとおかしいぜ」乙巡查「うんなんだかへんだな」丙巡查「ナゼ」ダツテ内務省や農商務省では組合を認めようとして法案まで作つて居るのに政府の堤灯持ちする會社資本家は組合をうちこわそうとするそして政府を敵のようにして居つた労働者が今度は組合を認めると云つて居るんだ丁度今までと反對ではないか」乙巡查「そうさダカラ労働者に味方が多くなるんだ今度は已たちもしつかり手を出すといけぬぞ」と云つて話をした面白いではありませんかこれから考へても私達に充分な理屈があるのです皆さんやりませうしつかりとやりませう十日でも二十日でも「そして死なば諸共」です。

而して會社は寄宿舎の女工を自由に外出せしめ場外の男女工と聯絡を自由ならしむるは事件を一層紛糾擴大するの恐れありとして、保護の必要あり」との理由に依つて寄宿舎の女工に對しては許可なくして外出するを許さず正門を鎖し入門者の警戒を嚴重にして、外部に於て運動に熱中し居る通勤の

男女工との聯絡交通を遮斷したり。

七 會社の態度表明

十五日職工側は永作博、高橋鐵藏、大平眞美、佐藤吉徳、柴山玉吉の五名を選び本社箱崎出張所に和田社長を訪ねしめたるが、社長不在のため持田常務代つて面談したり。此五代表者は會社と具體的交渉を爲さんとするに非ず、組合權の蹂躪に對し労働者が起つ止むなかりし理由と專茲に到れる經過とを通告するに止れり。罷業團がかゝる通告をなせる理由は十五日和田社長及持田常務が佐々山工場長を招き經過を聴取したるため、重役に對し雙方の云ひ分を聞かせ置かんとせるに外ならざりき。即ち十四日早朝の決議と云ひ此日の通告と云ひ罷業者は佐々山工場長を信頼せず又之と交渉するの意嚮を有せざるも重役に對して隔意なく寧ろ重役に依て素志の貫徹を期せんとするものなりしことを、罷業者は二回の誠首は佐々山工場長の一存に依て行はれしことを信せんとせるなり。

會社側の意嚮は此日明確に宣言されたり。十四日は寧ろ沈著ならざりし風あり、佐々山工場長は當日「工場は押上支部と交渉することは決して好ましからざれど事情止むなくんば辭せざるべし」と云へり。持田常務は鈴木友愛會長の電話に答へて「只今に到るも(午後三時)工場より何等の報告なし。爲に社員を調査のため派遣せる位にて調査後にあらざれば何とも申様なし」と結べり。